



# 消防団員の確保対策と

## 待遇改善などを決議

### 東北地区消防連絡協議会

平成二六年度東北地区消防連絡協議会は八月一日(金)、岩手県盛岡市の「ホテル東日本」で、東北地区七県(新潟県を含む)の消防協会から会長、副会長、事務局員ら五四名が出席して開催されました。秋田県消防協会からは中田潤会長、草薨副会長、成田副会長、海野副会長など七名が参加しました。

連絡協議会では、前年度決議事項について宮城県消防協会から処理報告が行われた後、議事に入り、各県から提出された要望事項などについて熱心に協議されました。「消防団員確保へ協力企業に税優遇を」の関連では、中田会長が対象税目を事業税より固定資産税にするほうがより効果があると意見を述べました。

なお、協議の結果、昨年制定された新法を踏まえ、消防団員確保対策と待遇改善について、関係機関へ要望することとしました。

題 字  
初代会長 松野盛吉  
定 価 1部 5円  
(購読料は年会費に含む)  
発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十六年全国統一防火標語  
もういいかい 火を消すまでは まあだだよ

### 前年度決議事項の処理報告

一 全国女性消防団員活性化大会及び  
全国女性消防団員生活性大会  
の休日開催について

【日本消防協会】 両大会の開催については、会場の確保、大会運営のための職員・団員の確保などで開催県の消防協会などに多大のご負担をお願いしています。開催日についても、そのような事情を考慮して決定しなければなりません。操法大会については、特に運営のための職員・団員の確保の面から休日開催は困難と申し上げざるを得ません。活性化大会については、今後、その都度開催地の県協会と協議してまいります。

二 消防団員服制基準の改正及び  
新たな活動服導入(更新)に  
伴う財政支援について

【日本消防協会】 消防団員の活動服については、当協会が提案したモデルが全面的に採用され、平成二六年二月七日に消防団員服制基準が改正されました。消防団活動服は、基本

的な装備として整備を進めなければなりませんので、これを含めた消防団の装備の改善のための財政措置の充実に今後とも国に要望してまいります。なお、平成二六年五月二三日に国に提出した「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律の運用について」の意見においても、財政措置の更なる充実に要請しました。

三 消防団員確保のための消防  
団員雇用事業所に対する優遇  
措置の推進について

【日本消防協会】 国において所要の措置を講じて頂くことが有効と思われまますので、これまでの要請に加え



て、前項で述べました五月二三日の当協会の意見では、国に税制についてのご検討とともに、地方公共団体が何らかの措置をした場合の国による財源措置について要請しました。

四 市町村非常勤消防団員退職  
報償金制度の支給基準改正に  
ついて

【消防団等公務災害補償等共済基金】

国で定めた基準で運用しており制  
度改正する立場にないと考えます。  
なお、消防庁からの回答はありま  
せんでした。

要 望 事 項

一 消防団を中核とした地域防  
災力の充実強化の国、県等の  
取り組みについて 《岩手県》

平成二五年一二月、「消防団を中  
核とした地域防災力の充実強化に関  
する法律」が定められ、本年八月二  
九日には、「消防団を中核とした地  
域防災力充実強化大会」を開催し、  
国民運動的な盛り上がりを進めてお  
ります。岩手県消防協会としては、  
消防団員の確保に向けた消防団員の  
処遇の改善と装備の充実が重要と考  
えます。

特に、消防団員の報酬や出動手当  
については、各市町村が条例で定め  
ることとされ、国としては、地方交  
付税措置を講じておりますが、県内  
では交付税上の単価と比較して、特  
に出動手当が低い状況となっております。

引き続き市町村に要請している  
ところでありますが、国、県、市長会  
及び町村会が一体となって取り組む  
ことが単価の引き上げなどの処遇改  
善や装備の充実につながることと思  
います。

つきましては、消防団員の処遇改  
善等について、国、県、市長会及び  
町村会で、法律成立後の実質初年度  
である平成二七年度予算に地方交付  
税予算単価を踏まえ引き上げにつ  
いて、具体的に取組んでいただく  
よう要望いたします。

協 議 事 項

一 消防団員確保対策と待遇改  
善について 《宮城県》

国は消防団員の処遇として、普通  
交付税の単位費用を積算しているが、  
当県でも市町村毎に条例で定める  
報酬額が単位費用を基準にしてお  
らず、六五・八パーセントの市町  
が単位費用を下回っている現状で  
あります。

市町村の首長は、消防団員の報酬  
額や車両機器の積算額を把握してい  
るのか疑問に思うので、改めて、新  
たな消防団員の入団対策と具体的  
な優遇措置などの目に見える消防団  
員確保対策について、各県の状況をお  
伺いします。

【参考】標準団体行政経費積算内容

積算内容	人口一〇万人規模
団員報酬(手当一人年額)	
団 長	八二,五〇〇円
副 団 長	六九,〇〇〇円
分 団 長	五〇,五〇〇円
副分団長	四五,五〇〇円
部長・班長	三七,〇〇〇円
団 員	三六,五〇〇円

【秋田県の実施状況】

団員確保対策として、市職員の入  
団促進三市、地域の郵便局員の入団  
促進一市、市職員が出動時の職務免  
除適用の規程見直し協議中一市、年  
報酬や出動手当の増額を実施済ある  
いは検討中七市町、ヘルメットや鉄  
板入り長靴の購入など、装備の充実  
を予定しているが二市で、二五市町  
村中一〇市町村が何らかの対策を講  
じています。

\*秋田県の非常勤消防団員の報酬  
等支給状況は、秋田県総合防災課の  
ホームページをご覧ください。

二 三月七日の消防記念日の祝  
日化について 《福島県》

昨年一二月に「消防団を中核とし  
た地域防災力の充実強化に関する法  
律」が制定され、地域防災力の充実  
強化を図るため、国、地方公共団体

の責務、消防団の強化及び住民の防  
災活動への積極的な参加などが定め  
られたところである。

これにより、災害発生に即時に対  
応することができ消防機関の果た  
す役割が再認識されたところである  
が、この機会に国民の防災意識のよ  
り一層の高揚を図るため、三月七日  
の消防記念日を国民の祝日として、  
国、日本消防協会へ要望しては如何  
かと考えます。

協議の結果、課題等もあることか  
ら引き続き検討することとした。

照 会 事 項

一 消防団員確保へ協力企業に  
税優遇を 《青森県》

国の消防審議会の「消防団を中核  
とした地域防災力の充実強化の在り  
方」に関する審議状況をみながら、  
検討していくこととした。

二 子ども達に対する防火・防  
災教育について 《秋田県》

三 任意の消防団協力団体の福  
祉共済について 《福島県》

四 災害対策支援金及び非常用  
食料の交付について 《岩手県》

◆来年度は福島県で開催されます。

# 第十回 消防団員 意見発表会(一)



伊藤 愛弓  
仙北市消防団  
団員  
・勤続二年  
・保険業

地域の方々との交流を深めるため、お婿さんのご主人と仲良く入団。  
何事にも積極的な、所属分団唯一の女性団員です。

## 「災害と消防団と私」

私たちの分団は、山に囲まれた静かな地域にあります。また、昨年発生した仙北市の土砂災害、先達供養仏地区も分団の管轄となっております。

現在、団員は四九名おりますが、定年などで辞められる方もおり、地域には若い方々が少なく、入団率も減少していて、現役団員の私としては残念に思います。

私が入団したきっかけは、夫が婿ということもあり、地域の方々と関わりを持ちたいと思いついて入団しました。なかなか休みがもらえず、一緒に活動出来ない状態で、私一人で消防団活動に参加しているうち

に、楽しくなり、今では夫より多く消防団活動に参加しております。

入団したての時は、何をやっていいのかわからなかったが、分団の飲み会に参加しているうちに、自然と教えてもらえるようになりました。

最初のうちは、火災のサイレンが鳴っていてもどうしたら良いのかわからず、火災現場に行くこともままならない状態でしたが、今となっては、サイレンの音とともに自然に身体が動いて現場に駆けつけております。

さて、昨年八月九日仙北市田沢の先達供養仏地区で悲惨な災害がありました。その日は大雨で、道路の脇の側溝から泥水があふれ出し、側溝の蓋が水の多さから道路に流されて、これ



ではないと感じました。その当時、勤めていた会社の上司に先達供養仏地区が流されたとき、初めは山ばかりなのに「どうして」と思っており、まさか、土石流で流された

は考えも及びませんでした。

災害が発生する前から、一分団の仲間が、出動しており災害があった日は、寝ずに頑張っていたそうです。

私には、女性と思いきや、出動して出動要請はありませんでしたが、「みんな頑張っているのに」という思いから分団長に直接訴え、出動の許可をもらいました。

私は翌朝六時から現場に入り、その光景に目を見張りました。土石流で滑り落ちた木が突き刺さった家、泥や瓦礫に埋まって変形している車、建っているはずの家が無くなっていたり、今まで見たことのない光景が広がっていました。

その日は、現場で指示を受け、各分団がそれぞれの持ち場に移動し、私たちは水の流れを変えるため土嚢作りと設置の作業に回りました。初めはなかなかうまく作れませんでした。段々としつかり作れるようになり、土嚢運びの途中、警官や自衛官の方々に「女性がいる」と言われ、「何も出来ないべ」と言われ、すごくショックでしたが、その気持ちを反動に、男性以上に働いていたように思います。

午前中は降雨により合羽を着ての作業、午後は天気が良くなり気温が上がって真夏日での作業、体力的にももたないのではと思われ知らされませんでした。

それでも、早期発見、早期救出の気持は強く、男性の方々に混じって、長い棒を土砂に刺しての捜索活動を経験し、泥の中で足をとられ消防士の方に助けってもらったりしながら活動しました。次の日からは、他の女性消防団員と合流し飲み物を冷やしたりと現場本部において捜索活動中の団員や本部の方々のケアをする事になりました。やっぱり複数の女性消防団員が現場に入ると「ヒリヒリ」していた空気が少しだけ和んだように思えました。

大変な災害でしたが、この現場を経験し消防団員として災害現場での救助活動にあたった経験を生かしながら、これからも、いっどこで災害が起きるか分かりませんが、いつでも市民の皆様のお役に立てるよう、消防団員を続けていきたいと思っております。





**佐藤 一也**  
・横手市横手消防団  
副分団長  
・勤続二十三年  
・表装業

二〇代で父と同じ消防団に入団。団の世代交代をきっかけに、積極的に活動に参加、今や頼れる副分団長です。

「幽霊団員が今や副分団長」

私が消防団に入ろうと思ったきっかけは、中学二年の時の事でした。夕飯を食べ終えた頃、外で何やら音がするので見てみると、隣の家の窓から火が立ち上っていました。一瞬状況が飲み込めず、パニックになりかけましたが、お風呂場のお湯をバケツで運んでかけてみたところで、燃え広がる炎には全く効果がなく、消防団に入っていた父は即座に分団長に助けを求め、本部の消防車が到着するより早く分団員が放水を始め、声を枯らしながら奮闘してくれました。その時の様子は今もはっきり覚えています。そのお陰で我が家はほぼ奇跡的に、冬囲いを焼失したのみで家屋には延焼せず、ススが残る程度で済んだのでした。

その時の有り難さと尊敬の気持から、私も大人になったら消防団に入つて、一軒でも一人でも火災の被害から救いたいと決意したのです。

二十歳を過ぎた頃、念願かなって私は横手市消防団第一分団に入団しました。しかし、当時は本職の自営業のほかに夜はアルバイトをしていたため、なかなか活動にも顔を出せず、幽霊団員のような状態が数年続きました。

そんなある日、日中に近所でサイレンが鳴り響きました。かなり近所のように、慌てて現場に到着すると、それは父や私がとてもお世話になっている方の家からの出火だったので、そこが、入団したてでほとんど消防団の活動に参加できていなかった私には「トビを持ってこい!」「筒先を交代しろ!」などの指示の意味がほとんど理解できず、現場で足手まといになってしまえば全焼になった現場を見上げながら、もつと被害を抑えられたかもしれないと後悔ばかりが残り、日々の訓練が現場での迅速な活動に繋がるのだからと身にしみたのでした。



それから間もなく、訓練大会の季節がやってきました。そして二番員を引退した先輩の後任に私が抜擢されたので

す。しかし、敬礼の仕方もわからない私に先輩方が手取り足取り指導してくれたにもかかわらず、結果は思わしくなく、結局ここでも足を引っ張るような結果になってしまいました。

このままではいけないと心を入れ替え、バイトで寝不足の体にムチ打ち、早朝の訓練大会の練習にも毎年出させていたたくようになり、少しずつ道具の名前や小型ポンプ操作、規律を学んでいったのです。

それから十数年が経ち、市町村合併に伴い消防団も再編され、三つの分団が統合された新たな分団となりました。そして、当時の分団長が定年を待たずに突然引退することになり、四〇代になったばかりの私に副分団長になってほしいと言いました。自営業でポンプ操作の選手経験など総合的にみると私しかないとの事で、当時地域局の消防団担当の同級生に相談すると、誰でもいいというわけではないんだから是非やってみて欲しいと背中を押され、悩み抜いた末、引き受けることとしたのです。

まさか、若輩な私がこの年齢で副分団長になろうとは想像もしていませんでしたが、引き受けた以上やるしかないしと決意し、悪戦苦闘しながら現在に至ります。

幽霊団員だった私も今や副分団長です。高齢化や団員不足はもちろん、様々

な問題が山積みです。失敗や後悔が多かった二〇数年の消防団活動を少しでも生かし、我が家を守ってくれた消防団のような、いざという時に頼りになる存在になれるよう、備え、理想を持って日々の活動を行っていきたいと思います。



**佐藤 勝也**  
・東成瀬村消防団  
団員  
・勤続七年  
・会社員

農業研修生として神奈川県から移住、平成一九年に入団しました。団員や同僚の信頼厚い、誠実なムードメーカーです。

「移住者にとっての消防団」

私は神奈川県出身で、十年前に秋田県へ移住してきました。農業をやってみたくてという思いと、豊かな自然に囲まれた地で暮らすことへの憧れを胸に、なんのつてもなく単身やって来ました。

今振り返って見ると、なんとも無計画で無鉄砲な行動だったと思うのですが、そんないきなりやって来たよそ者の自分を、地域の方々は温かく迎え入れてくれ、応援をしてくれました。また、事ある毎にお酒の席に誘ってくれました。そのことは、本当に有難く、不慣れで細かい生活

を送っていた私の心の支えとなりま  
した。

そうした中、消防団に入らないか  
という話が私の元になりました。団  
員の数が減少していて新しく入る人  
も少ない状況の中、自分にも声がか  
かったのだと思います。

私はその話しを聞いてどうするべ  
きか悩みました。地元の人達ばかり  
の消防団の中で孤立してしまうので  
はないだろうかと不安にもなりまし  
た。しかし、それまでお世話になり  
っぱなしであった自分がかもしら  
ら少しでも地域の役に立てるかもし  
れないと考え、私は入団することを  
決めました。

所属先の部の団員は普段は中々顔  
を合わせることもない若い人達が多  
く、もしも消防団に入っていなかつ  
たとしたら、恐らく交流を持つこと  
はなかったと思います。あつたとし  
ても、これほどまでに深い付き合い  
にはならなかつたでしょう。

そのように親交が深まつたのは、  
消防訓練大会に向けての練習を通じ  
てのことが大きかつたと思います。  
早朝や仕事を終えた後の夕方、そし  
て休日の時間を使つての約一ヶ月半  
の間、真剣で熱の入つた練習に最初  
は圧倒されたが、ただだつて行くの  
に必死でしたが、厳しさの中にも優  
しさのある先輩方の指導と、ポンプ  
操法の動きをより良い形にしていく

ため、お互いの意見をぶつけ合う団  
員達の姿勢に触れていくうちに、私  
も熱心に練習に取り組みようになり  
ました。

そうした中、私はふと学生時代の  
部活動のことを思い起こしました。  
一つの目標に向かつてひたむきに練  
習を積み重ね、それを通じて仲間と  
しての絆が深まつていくあの感じを  
懐かしく思い出し、あの時のような  
情熱が自分の中によみがえつてきた  
ことに、うれしさを感じました。

右も左も分からない私に、貴重な  
自分の時間を犠牲にして一から教え  
込んでくれた先輩方に対しての一番  
の恩返しは村の大会で練習の成果を  
存分に出して上位入賞を果たすこと  
だと思ひ本番に臨みましたが、緊張  
で何がなんだか分からないうちに競  
技は終わり、不本意な結果となつて  
しまいました。

悔しさと申し訳なさで落ち込みま  
したが、チームのメンバーと肩を抱  
いて健闘を称え合い、同じ分団の人  
達から「お疲れ様、よくやった。」  
と声を掛けてもらうと、何とも言え  
ないうれしさがこみ上げてきました。  
また、慰労会の席で幹部の方から「大  
会で一位をとることが目的なのでは  
ない、この仲間達で仲良く楽しくや  
ることが一番大切なんだ。」という  
言葉を聞いてハッとさせられました。  
間違えずにうまくやることばかり考

えていた自分もつと大事な何かに  
気づき、肩の力が抜けてリラックス  
できました。

消防団に入ると私生活の時間や休  
日の時間を取られるために、入団を  
敬遠する人も多いかと思ひます。

しかし私は入つて本当に良かった  
と思ひます。それは県外から移住し  
て来た者として、より地域の中に溶  
け込み、多くの人達と出会い、また  
仲良くなる事が出来たからです。  
それに高齢化や人口減少が進む中山  
間地域では、消防団員の役割はより  
重要性を増すと思ひます。私も災害  
や火災があつた際に少しでも役に立  
てるよう、これからも頑張つていき  
たいと思ひます。

★第六七回秋田県消防大会の

司会進行担当を紹介します★

(上) 仙北市消防団 西宮三春さん  
(下) 大仙市消防団 挽野利恵さん



森田ポンプ ラビットポンプ  
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式  
各種消火器 消防機器一式

---

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

**消 防**

ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**

火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

**猿田興業株式会社**

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

第68期教育  
第1任教育

あきた病院での  
研修を終えて

秋田県消防学校

第六八期初任教育入校生は二班に分かれ、六月三〇日と七月一日の二日間、由利本荘市岩城の「あきた病院」で研修を行いました。  
この研修の感想文が寄せられましたので紹介します。



河本 優也  
秋田市消防本部

あきた病院での実習は、社会勉強であり、消防職員として知っておくべき知識を得られる貴重な経験となった。私はこれまで、あきた病院のような慢性期の病院に入ったことはなかった。大学時代に病弱や肢体不自由の障害児・者と接する機会があったが、今思えば一般人が障害者と関わることは少なくとも不思議ではない。私自身、身の回りに障害を持った人はいなかった。それでも、今後の人生で障害者と向き合う思いやりを養う必要があると思う。  
実習は神経難病の病棟で行った。高齢者が多く、コミュニケーション

を取るのが困難な患者さんのいる病棟だった。この患者さんは、介助なしで食事をとれる人はほとんどいないようだった。食事をとれない理由の一つに、著しい握力の低下があるようだ。自力で食事ができないのは辛いだろうと感じた。  
私は過去に少しだけ勉強したことがあった分野ということもあり、今回の実習では誰よりも意欲的に取り組めたと思う。



舛屋 雄  
大館市消防本部

病棟での研修を終えて、自分が五体満足で、食べたい物を食べることにできることに感謝しなければならぬと感じた。神経難病は、苦しい病だと思う。しかし、外に出た時、話をした時、笑顔でいることは本当に凄いなと思う。自分がもし同じ立場なら同じ対応は出来ないと思う。死が見えていて、人生の残りが決められた時に、あの患者さんのように笑顔でいられたら本当に強いと思う。これから先、同じように身内や自分もALS神経難病になるかもしれない。その時、この経験を生かして、笑顔でやりたい。消防士としては、

救急搬送で同じような患者さんを運ぶかもしれない。その他にもたくさんの方で、同じような方に接するかもしれない。この経験は確実にプラスになる。

自分が今、五体満足で消防士として働いていることも、苦しい辛いトレーニングをしていることも、ALS神経難病の方には、やりたくても出来ないこと。だからこそ、今やっていることに対して、感謝の気持ちを忘れずに、日々精一杯取り組んでいかなければならない。今しか出来ないことを、今はもう出来なくなってしまう人の分まで必死になつてやりたい。



仙北屋 菜奈  
由利本荘市消防本部

今日は、岩城にある「あきた病院」で短い期間だったが、病院実習を行った。私が担当した東五病棟は、主にALSや脊髄小脳変性症等、神経難病の患者さんがいる病棟だった。そのため、四肢や身体の自由が効かない等、ほとんどの方が言語の伝達に不具合があるようでした。今回の実習では、先ずリフトの体験をした。普段の訓練等で人を持ち上げたり、

引きずったりすることはあるが、自分の体があのように軽々と持ち上げられることはなかなかないので、すごく貴重な体験をさせて頂いた。  
今回の実習で強く感じたことがある。難病を抱えて入院している患者さんが一生懸命生きていくということだ。身体の自由が効かなくて、何をすることも困難なはずなのに、全力で時には笑顔に向けてもらえてとても胸に響いた。人間が持っている生きる力の強さを教えてもらった。所属に戻り、出動できるようになった一人でも多くの方の笑顔が見られるよう優しくて強い消防士を目指したい。

私は南一病棟で重症心身障害者と触れ合った。会話もできない患者とどのようにコミュニケーションを取ったらよいか、自分に何ができるのか、たくさん不安があった。体育の活動として音楽と合わせて体操するのだが、患者に付き添い、私はそこで患者の楽しんでる姿を表情で読み取った。話



兼松 翔  
にかほ市消防本部

私は南一病棟で重症心身障害者と触れ合った。会話もできない患者とどのようにコミュニケーションを取ったらよいか、自分に何ができるのか、たくさん不安があった。体育の活動として音楽と合わせて体操するのだが、患者に付き添い、私はそこで患者の楽しんでる姿を表情で読み取った。話

すことはできないが目であつたり、必死に何か語りかけようとしていたり、コミュニケーションが取れた気がした。食事の時間は患者にとって一番の楽しみにしている時間だと言っていた。

私はこの実務研修を終えて、五体満足であること、健康で生きていることがどれだけ恵まれているのか強く感じた。この実務研修を通して、最も大事なことは、これから消防士としてやっていく上で、今回の研修をどのように生かしていくかを考えるのがこの研修をやった意味であると思った。どのような人も助けられる人でなければ消防士としてやっていく意味もないと思う。



高橋 光佑  
横手市消防本部

今日は、南一病棟の重症心身障害児(者)の方々と交流をした。最初の説明を聞いている時は、病名がとて難しく、なかなかじむのは難しいと感じた。また、そのような

方々と交流したことはなかったの、上手く対応できるのかということもとても不安だった。ただ交流していくと表現や身振り、何を求めているのかということが、段々と分かるようになってきた。そして、私達に質問などをしてきてくれたので、少しの時間でしたがふれあい、仲良くなることができた。

この研修を終えて感じたことは、自分が五体満足に生活出来ているということが、とても幸せだということとが分かった。この状態が当たり前だと思わずに頑張っていた。また、言葉を話すことの出来ない人というのは、救急現場でも出会うことがあると思うので、その時は、今日学んだように表情や身振りから相手が伝えたいことを読み取れるようにしたい。



野呂 俊樹  
北秋田市消防本部

今日は「あきた病院」に行き、神経難病の方々のお世話をさせて頂いた。そこでは自分達が当たり前のようにできる行動が、できない方々の目に当たりにして心を打たれるとともに、五体満足の自分達は幸せなこ

とだと考えさせられた。始めに神経難病についての説明を受けた。一番印象深かったことは、食事のお手伝いをしたことだ。ミキサーでトロトロにした流動食を口まで運ぶ動作の繰り返しだった。完食すると表情は変わらないが、手を合わせていた。その動作はありがたう、ごちそうさまなのか意味は分からなかったが、感謝してくれているのだと思った。伝えたいことを伝えることができず、伝えないのは相当悔しいだろうと思う。自分達は悔しい、苦しい思いをしたら改善するために努力することが出来る。

しかし、神経難病の方々は改善したくてもできず、常に苦しんでいるのだと思う。そういった方々の介護をしている看護師の方々は改善したくてもできず、常に苦しんでいるのだと思う。普通の人は率先して行っていて尊敬した。看護師の方々は、消防と病院は密接な関係にあると言っていた。看護の仕事を経験して、相手の気持ちを大切にすること、率先して人が嫌がる仕事に向かう事に生かしたい。自分も今日見た看護師のような優しい男になるとともに、今このように生活できていることに感謝し、これからも頑張りたいと思う。



澤田 石貴彦  
能代山本広域消防本部

今日学校のすぐ近くにある「あきた病院」へ行き、一日実習させて頂いた。普通の病院とは違って、重症心身障害者も入院していた。実習を終えて改めて人間の命の尊さを実感し、命は大切に守らなければならないものであると考えさせられた。人生で初めて重症心身障害者の方々の生活を近くで経験し、一生懸命生きていく姿を目の当たりにした。また、職員の方々が入院患者一人一人に対して優しく笑顔で愛情のこもった態度や援助をされている姿には、自分も見習っていきたくて強く思った。四人一組で持ち場へ移動し、二〇歳の男性を受け持たせて頂いた。中でもご飯が来るまでの時間、患者さんに「今日楽しかった？」と聞くと、少しだが笑って反応してくれた。自分には「楽しかったよ」と言っているように思え、嬉しく感じた。

今日の貴重な経験を無駄にせず、どんな障害を持った方でも、どんな傷病者でも対応出来るように勉強し、訓練し、強くて優しい消防士になりたいと思った。

支部情報アラカルト

大会に伴う催し物について

七月、横手市では八地区で消防訓練大会が行われ、各地区で優勝した分団が横手市の支部大会で小型ポンプ操法、自動車ポンプ操法、規律訓練をそれぞれ競い合う形となっています。

その地区ごとの大会の中で行われる特徴的な催し物を、二つ紹介させていただきます。

一 消防団OBによる腕用ポンプ実演

平鹿地区では午前の部が終わった後、OBの方々が半世紀前まで使用されていた腕用ポンプで、実際に水を揚げて見せます。破損箇所も大分あります

がOBの皆様による整備で現在も稼働できる状態です。小型ポンプが主流の現代ではもう滅多に見ることが出



腕用ポンプ操作

来ない光景ですが、その放水力の高さは今でも機械に負けておらず、見学している市民の間からも驚きの声が上がっていました。

二 大会後の消防団によるリレー競争

大森地区では大会の終了後に、分団対抗リレーが行われます。始まりは昭和五五年、当時の消防団長が発案したものであり、集計時間中のアトラクションとして、一人五〇Mを七名でリレーしています。会場をグラウンドに移し、先ほどまで抱えていたホースを今度はバトンに変えて、足をもつれさせながらも体勢を立て直して必死に走る姿に、会場は操法の大会に勝るとも劣らぬ熱気で包まれています。

今後市民の方々に消防団の存在をアピールし、一人でも多くの方が入団していただくことを期待しています。



大森地区分団対抗リレー

(情報提供)横手市支部

火災の発生状況(速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成26年		平成25年			同期比較	
	7月	累計	7月	累計	年計	7月	累計
建 物	11	133	12	129	204	- 1	4
林 野	4	41	1	34	34	3	7
車 輛	0	15	3	29	39	- 3	- 14
そ の 他	3	53	3	56	72	0	- 3
合 計	18	242	19	248	349	- 1	- 6
死 者 数	4	25	0	16	22	4	9
負 傷 者 数	1	43	9	46	66	- 8	- 3

第51回 秋田県消防操法大会開催のお知らせ

秋田県と秋田県消防協会は、消防団員の消防技術の向上や士気の高揚、消防活動の充実強化を図るため、秋田県消防操法大会を開催します。

出場隊は各支部の予選を勝ち抜いてきた精鋭隊ですので、熱戦が期待されます。

多くの方々の観戦をお待ちしております。

競技種目 小型ポンプ操法、ポンプ車操法  
開催月日 平成26年9月4日(金) 午前10時から  
開催場所 由利本荘市岩城「秋田県消防学校 放水訓練場」

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
消防被服全般  
秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
火災報知器各種  
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 Ⅱ(0183) (42)2125  
〒012-0844 湯沢市田町 Ⅱ(0183) (73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182) (32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース  
トーハツポンプ | シバウラポンプ  
各種消防機械器具 | 各種消火器  
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)